

## 「出題の意図」

選抜区分 学校推薦型選抜	2023年度（選抜区分：学校推薦型選抜） 文学部 比較文化学科（科目名：小論文）
出題の意図 （評価のポイント）	<p>問題Ⅰ</p> <p>問4 問題文の主題に関して意見を英語で述べさせることにより、英語の読解能力、英文の構成能力（英単語、英文法、英語構文に関する知識）、発想力、論理的思考力を問うた。</p> <p>問題Ⅱ</p> <p>問2 自身の知識や経験から、解答に当てはまる適切な事例を選び出し、論理的かつ具体的にまとめる力を問うている。取り上げる事例は、必ずしも「笑い」のような喜怒哀楽に結び付く行為である必要はない。例えば、①同じアイドルのファン同士で、そのアイドルの同じコンサートに参加するという行為により、当日の会場の熱気をともに経験したこと、②クラスや学年が異なりほぼ初対面であったが、学校の文化祭にて同じイベントの実行メンバーとなり、ともに悪戦苦闘しながら取り組んだこと、③美術館で開催された同日時の列品解説にともに参加し、一緒に展示室を移動しながら複数の同じ作品をともに鑑賞したこと、④数十年に一度の彗星の大接近を、それが良く見える場所へ各々が別々の場所からやって来て、その稀有な一瞬の現象をともに息をつめて観察したこと等、自身の知識や経験から導き出せる事例は数多く存在すると言えよう。</p> <p>そのように、この問に結び付く適切な事例を見つけ出す発想力と、その行為がどのように「協調」の機能を果たし得るかを論理的かつ具体的に論述する力を求めている。</p>

以下、例を挙げる。

(例1)

「協調」の機能を果たすものとして、甲子園での応援を挙げたい。私は女子高に通っているが、近くの男子校が甲子園出場を決めたために、私の高校からも有志を募り、甲子園での応援に加わることとなった。私が通う女子高では日頃は、同男子校について、変り者が多い等と嫌悪の対象のように噂する人がほとんどで、同校の野球部についても、「大学は浪人しても行けるが、甲子園には高校生の間にしか行けない」というスローガンのもとに、熱心に練習に取り組んでいる割には、毎年県内の予選を突破できない等と馬鹿にするような風潮があった。それにも拘わらず、応援団参加者を募ったところ希望者が数十名にも及んだ。かくいう私も、応援団に加わった一人である。甲子園の応援席に到着した当初は、同校との間によそよそしさがあったが、いざ男子校応援団の指示や号令のもとに応援が始まると両校の隔たりはなくなり、一丸となって熱のこもった応援が繰り広げられた。

(399字)